

## 各グループで検討いただきたい問い

### 前半 A

経産省が使う「研究者」、「基礎研究」は、なんと呼び変えたら大学研究者の誤解を解けるのか？

(参考資料：p21～22 5. (3) 大学・国研)

### 前半 B

大企業、起業、外資系など、従来のイメージを覆す多様な活躍をしている博士の具体例を挙げてください。

(参考資料：p8～9 2. (1) ②イノベーション人材の育成・流動化の促進

p18 4. (1) 人材の最大活用に向けた取組強化)

### 前半 C

企業内の複数部門、また他組織との連携が、名ばかりでなく実現できるときにはどんな仕掛けが機能しているのか？

(参考資料：p9～12 2. (2) ①オープンイノベーションの深化)

### 後半 A

大学と企業の共同研究が、安価な労務提供となってしまうのはどのような仕組みが問題なのか？

(参考資料：p10 2. (2) ① 1) 産学の事業化連携の強化 2) 産学連携・融合に取り組む大学支援

3) 出島型研究開発・事業促進)

### 後半 B

ベンチャーと大学が win-win で連携できるとき、教授や学生の関わり方、知財の持ち方などの仕組みはどう工夫されているのか？

(参考資料：p12～13 2. (2) ②未来ニーズを実現するスタートアップ政策パッケージの一体的推進)

### 後半 C

産学連携への投資や新規事業への投資において、企業はどんな意思決定軸を持っているのか？

(参考資料：p18～19 4. 未来ニーズからの価値創造を実現する企業の研究力の強化)